

シルバー宗像

「実力集団～市民の味方」

特集

平成の思い出 私の思い出



(公社) 宗像市シルバー人材センター

宗像市赤間4丁目2-1 TEL:0940-33-1151

特集!!平成の思い出

✿ センターの30年の歩み ✿

元年 宗像市高齢者事業団（自主組織）として創設
2年 社団法人宗像市シルバー人材センター発足
3年 地域班編成 会員数234人
4年 「シルバー宗像」創刊号発行
5年 婦人部会発足 草友会親睦旅行会発足
6年 職群班発足 除草、剪定、委託班
7年 阪神・淡路大震災 家事援助サービス班発足
8年 会員数300人を超える。（329人）
9年 センター事務所をメイトム内に移転する。
10年 10周年記念誌発行（旧玄海町加入）（431人）
11年 草刈班、技能班、管理班発足 計6職群班編成
12年 市高齢化率（65歳以上）17%に達する。
13年 アメリカ同時多発テロ パソコン同好会発足
14年 写真同好会発足
15年 旧宗像市、旧玄海町が合併 新宗像市誕生
17年 宗像市高齢化率19%
19年 センター事務所を現事務所（赤間4丁目）に移転する。
20年 リーマンショックで株価暴落 公開募集を開始
21年 会報40号発行
22年 宗像市高齢化率23%に達する。
23年 東日本大震災
24年 公益社団法人に移行する。より公益性を重視
26年 消費税8%導入 学校管理班発足 8班体制
27年 宗像市高齢化率27%に達する。
28年 天皇皇后両陛下 宗像市訪問
29年 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 登録
30年 会報60号発行



シルバー10周年記念樹
（メイトム内）



会報創刊号

天皇陛下崩御による「平成」の新元号は、新たな時代に入ったことを強く感じさせてくれました。同時に私自身の現役生活の折り返し点も間近でありました。



理事長 安部 徹二

平成は、昭和とは異なる出来事が多く思い出されます。最たるものがバブル経済の崩壊でした。勤務先市役所でも、行財政改革が行政運営の柱となり、平成15年九州最初の市町村合併は象徴的な出来事でした。市議会での質疑も厳しくなり、緊張感の中で説明・答弁に四苦八苦したことが懐かしく思い出されます。

沖ノ島関連の世界遺産登録は合併後の宗像市の誇りとなりました。先駆けとなる平成15年開催の大国宝展は思いのほか盛況となり、その実行委員会で夢中になったことを折りに触れ思い出します。

事件・災害の記憶として、地下鉄サリン事件や阪神・東日本大震災などは衝撃的でした。福岡西方沖地震の大震動を経験し、「災害は日本のどこでも起こり得る」が実感となり、自主防災組織が立ち上がっていきました。熊本地震の年に私自身も防災士認定に挑戦しました。宗像においても大災害の可能性はあり、今後も地域防災に関わっていききたいとの思いです。

現在、シルバー人材センターに在籍し、会員の皆さんが生涯現役を目指されている姿を拝見していると、どの時代も賢く生き抜いていく知恵が大切であることに気づかれます。

夫婦二人世帯となった今、身の丈に合った生活スタイルや健康維持などに関心を持ち、孫たちの世話や地域の関わりを大切にしていきたいと考えています。

私の思い出

平成

「一枚の写真とゴミ拾い」

突然の原稿依頼で吃惊しました。何で自分が…と思いましたが、閃いたのは歳を取っているからだ…成程それじゃ…と…思い立ちました。いつの間にか昭和が終わり平成も僅かとなり急速な年の流れと、年齢?…を改めて感ずる次第です。昭和は遠くになりけり…全くその通りであります。



管理2班 吉野 和幸

一番の思い出は何と言っても好きな唄に関する事です。皆さんもご存じの歌謡界の「ドン」と言われている歌手の北島三郎が「博多の人」のテープを出した記念に…「博多の人美人コンテスト」が「クラウンレコード」の有田一寿社長が来福して、行われた時の事です。待望の北島三郎に接近する事が出来ました。その上応援に参加した福岡支店の社員と一緒に撮った写真、しかも北島三郎の真横で、おまけに優勝された「博多の人美人」に挟まれて撮った1枚の写真です。本当に考えられない立つ位置でした。「反省…です」

処で私には素晴らしい人に御縁がありました。その御方は25年間、毎朝4時起きをされて博多駅から会社まで(博多区)「ゴミ」を拾って有りました。しかも冠婚葬祭その他には時間が早いので「支障無し」との事も言われておりました。私も「面白半分」参加した事が有ります。(僅か3回です)その御方は2年前退職されました。又、同じ様な方が先輩で城西ヶ丘にいらして、その方から「ゴミ」「缶」を入れる「網袋」を頂いたりして現在もその流れで駐輪場勤務の時「行き」「帰り」その他で、思い付きで拾っております。何時まで続くか解りませんが「せめて」勤務通勤している間は続けたいな…と思っています。

因みに先輩は「わざわざ」バイクで行動しており私には到底真似は出来ません。でも時として、「ゴミ袋」の集積所に行く毎に先輩の拾われた「ゴミ袋」を見て頑張られてる事と其の御方の尊さを感じさせて戴いています。

その御方のモットーは「感謝」だそうです。意味は解りますが、私には程遠いものを痛切に感じます。

利用者の声



イクウェル チャイルド・アカデミー 大塚 祐三子

子どもたちが楽しみにしているのはレッスンだけではなく。兄弟がレッスンしている間は、シルバーさんをお願いして託児をさせていただいております。「おばちゃ〜ん!」とうれしそうに託児の部屋までかけていく子もいます。

一番長くお世話になっているシルバー人材センターの川原さんは平成27年から就業して頂き、毎回色々な楽しい取り組みをご準備いただいて、本当にありがたいです。図書館で働いていた経験を生かしていただいて、一人一人にあった絵本を選んでくださるだけでなく、様々な工作、手遊びなどで子どもたちが楽しくその時間を過ごせるように、それらを素敵にデコレーションして子どもたちを迎えてくださいます。初めてママから離れたお子さんは一時間ずっと泣いていることもあります。

みなさん温かく子どもたちを受け止めてくださるので、ママたちも安心してレッスンに入ることができています。また、急な託児のお願いやキャンセルにも対応していただけるのでありがたいです。「ここの教育は素晴らしい。子どもたちを見ているとよくわかる。」と、褒めていただき、私たちもうれしいかぎりです。

これからも子どもたちの未来のために、スタッフ一同精一杯がんばってまいりますので、どうぞお力を貸してください。そして、よかったらお孫さんとレッスンを体験してみませんか? ママ・パパの代わりにレッスンに来られているおじいちゃん、おばあちゃんもたくさんいらっしゃいます。脳トレとしても喜ばれています。教室が様々な世代が触れ合う温かい場所となればうれしいです。

私、こんなことをしています。✿

会員さんには、地域でいろいろな活動に取り組まれています。今回は、管理3班の帆足 賢一さんをご紹介します。現在、宗像歴史観光ボランティアの会の一員として活躍中



帆足 賢一

シルバーと歴史観光ボランティア

ガイドをやって7年目になりますが、私は宗像大社のガイドより鎮国寺ガイドのほうが好きです。なぜなら、本堂で日本独特の画期的なつくり方である「寄木造り」や写実的で力強い輝きが生まれる眼に水晶を埋め込んだ「玉眼」という技法を紹介できるからです。無料で堂に入り、これだけ仏を身近に接する寺が宗像にあるのはうれしい限りです。

よく「国宝・重文です?」と聞かれますが、それはどうでもいいことです。県の指定文化財クラスだから見学可能で、国宝では仏までの距離が遠く、中にはガラス越しの対面も多い。

さて仏の教えを知り、少しでも自己完成に近づこうと努力しなければ単に仏に関する知識を習得したに過ぎないと思う。分別収集の際に、臭いのする缶を前にして「洗ってくればいいのに…」大量のその他プラを両手に抱えてやってくるのを見れば「どこに、あんなに溜め込んでいるの…」と思ってしまいます。でも本人にすれば、日々の生活に追われ、時間が無く、そこまで気持ちの余裕がないのかも知れない。ここは一言「洗って頂くと金物から缶に昇格出来て、缶も喜びますよ」「プラごみにせず、地球環境の保全に協力して頂きありがとう」と言えば、その場は和む。少しでも無財の七施にいう

「顔施(がんせ:おだやかな顔)」
「言施(ごんせ:和やかな言葉)」で
「宿施(しゅくせ:訪れた人を快く迎える)」に
したいものです。

互助会の活動

シルバー宗像第60号の発行を大変喜ばしく、また先輩方が築かれた歴史の重みを感じます。今回の記念号に平成最後の特集として30年の歴史が紹介されていますが、平成と共に歩んだ宗像市シルバー人材センター及び互助会の歴史を顧みて感慨ひとしおという方も多いことでしょう。

これからも会員の皆様が心身ともに益々元気にこの伝統を受け継いでいきたいものです。これからの互助会活動により一層のご協力と積極的なご参加をお願いします。

互助会会長 馬場 毅

グラウンドゴルフ大会結果

秋晴れの10月30日 JAむなかたグラウンドで18チーム113名が参加しました。結果は次のとおりです。

優勝 南郷景観形成チーム	準優勝 赤間西1班チーム
3位 学校管理Cチーム	個人優勝 中村 利男さん
個人優勝 馬場口 栄一さん	準優勝 赤星 安正さん



3月19日(火) 国民宿舎「ひびき」にて研修会・懇親会を行います。



昨年度の研修会の様子

同好会の活動便り

歩こう会は、女性を中心に会員相互の交流を目的として、昨年に立ち上げました。初めての活動は、昨年10月に12名の参加で地島に、11月に11名の参加で大島に行ってきました。両日とも天候に恵まれ、観光案内人の随行のもと、にぎやかな一日となりました。出発は神湊ターミナルから、20分程度の船旅で目的地に到着できます。**地島コース**は自生する6000本のヤブ椿の「つばきロード」を散策しました。



みなさん元気に地島を縦走しました。



漁師の奥さん直営の
地島「なごみ」のこだわりメニュー



自生するヤブ椿
特産品の地島油は
この種子から
搾り取った油です。

大島コースは、島内トレッキングコースである「宗像・大島コース」と世界遺産群の中津宮や沖津宮遥拝所を巡りました。歴史の重みと深さに、案内人（シルバーの会員です。）の説明を熱心に(?) 聞きました。かすかではありましたが、沖ノ島を運よく展望することができました。また、世界遺産今回は女性中心の行程で、なんといっても、昼食にこだわりまして、地島では漁師直営の食堂「なごみ」で漁師飯を、大島では民宿「つわせ」で魚料理を堪能しました。日頃は顔を合わせない会員でも直ぐに打ち解けることができました。



沖ノ島がかすかに見えました !!



テレビ、雑誌でよく紹介される沖津宮遥拝所



大島漁師直営の
民宿です。



研修後です。
お腹もいっぱい。
知識もいっぱい。

次回の歩こう会の予定

- 日時** 6月1日(土) バス利用で終日
- 行程** 下関～長府市内(山口県)
昼食場所は唐戸です。
- 参加費** 3000円 昼食代は個人負担
- 申込み** 5月25日までに事務局まで。

秋の計画は8月の会報に掲載します。

その他(連絡事項など)

安全適正就業委員会の報告

現在までの事故件数は3件で、昨年度7件から大きく減少しています。「安全はすべてに優先する。」を合言葉に日々安全就業に取り組んだ結果です。安全な就業はセンターの事業運営の基本です。安全適正就業委員会も全力を挙げて事故防止に努めます。



会員の確保

事業拡大とともに会員の確保が急がれます。新会員さんの入会動機に現会員からの紹介が多くあります。「一人一会員入会」運動を今後も推進しますので、会員さんには、積極的な勧誘をお願いします。

公開募集

センターでは適正な就業機会を会員に提供するための規程に基づいて、年2回の公開募集を実施しています。現在未就業の方、他の就業を希望される方、就業満期終了の方は、希望する事業所の就業条件を確認して期間内に申請して下さい。

【募集期間】4月1日～4月26日

【公開場所】センターロビー内

不明な点は事務局まで問い合わせ下さい。

☎33-1151

ボランティア活動

今年も多くの会員さんに参加していただきました。ご協力に感謝します。



事務局からの連絡

【総会のご案内】日時:5月28日(火) 13:30～

場所:メイトム

編集後記

新たな年号が気にかかるこの頃です。我がシルバー人材センターは平成から始まり今年で30周年を迎えますが、今回の第60号の会報は平成最後の発行となりました。この30年間で会員数はもとより、仕事の種類や雇用形態も大きく変わり、会報誌も時代とともに編集内容も変化してきましたが、広報委員会はできる限りの情報を会員に伝える思いで編集をしてきました。創刊から年2回の会報を30年間継続して発行された先輩委員の功績に敬意を表します。

会員の皆さんにとっては、平成の30年間はまさに現役時代の波乱に満ちた人生を過ごされたことと思います。時には人生最大の岐路に立たれたことも…。今回みなさんからそれぞれの思いの一端を投稿して頂きました。

世の中、高齢化の表現も65歳高齢化から後期高齢を超えて、今や人生100年時代となりました。平均年齢72歳の会員さんには、まだまだ長い人生、ことわざに「生きがいさえ分かれば、人生はとても素晴らしいものになる」とのこと。

このためにも、会報誌はシルバー活動を通して、会員の「生きがいづくり」を応援していくための情報誌でもあります。次号は新たな年号での発行となりますが、今以上に皆さんに目を通して頂くように心がけていきます。

最後に第60号の発行をもって広報委員の任期が満了します。会員の皆様には執筆依頼等、ご協力を頂き感謝申し上げます。次号は新たな委員会での編集となりますが、引き続きご協力をお願いします。



(広報委員会の皆さん)